

ポルトガル月報

2015年9月号

(本報は報道等の公開情報を当館が取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

- [内政] ソクラテス前首相の保釈・自宅拘禁措置の決定 (4日)
- [外交] キャメロン英首相のポルトガル訪問 (4日)
- [経済] 2014年度財政赤字の修正値発表 (23日)

内政

●ソクラテス前首相の保釈・自宅拘禁措置の決定 (4日)

検察庁は、汚職、脱税、資金洗浄の容疑により昨年11月に逮捕され、その後エヴォラ拘置所で予防拘禁下にあったソクラテス前首相を、容疑者からの事情聴取が不要であると決定したこと、またその後行われた関係者への事情聴取や家宅捜索を通じて必要な情報が集められたことから今後の捜査を妨害される危険性が低下したことを踏まえ、保釈、自宅拘禁措置とする旨を発表した。

●パソス・コエーリョ首相とコスタ社会党書記長のテレビ討論 (9日)

10月4日の総選挙を前に、パソス・コエーリョ首相とコスタ社会党書記長はテレビ討論を行った。パソス・コエーリョ首相は、終始ソクラテス前首相と社会党との繋がりやトロイカ支援を求めるきっかけを作り出したのは社会党である旨の論調を展開し、コスタ書記長は現政権の行った緊縮策によって国民が犠牲を強いられ、公的債務が増大、貧困が増加した旨の論説を展開した。

●ユーロソンダージェン社による世論調査 (26日)

週刊「エスプレッソ」紙によると、ユーロソンダージェン社による最新の世論調査(実施期間 17日~23日)結果(※)では、政党別支持率は最大野党の社会党(PS)が36%、連立与党が35.5%であった。

(「エスプレッソ」紙は、10月4日の総選挙を前に9月5, 18, 26日と3回の世論調査を実施した)

【政党別支持率(%)】(直近3か月の支持率推移)

	7月	8月	9月26日
社会党(PS)	36.7	36.3	36
連立与党(PSD+CDS)	34.6	34.8	35.5
統一民主連合(CDU)	10.2	10	10.1
左翼連合(BE)	4.8	5	5
共和国民主党(RDP)**	2.5	2.3	1.9
自由の党(PL)**	1.9	1.7	1.5

**RDP及びPLは共和国議会で議席を有していない。

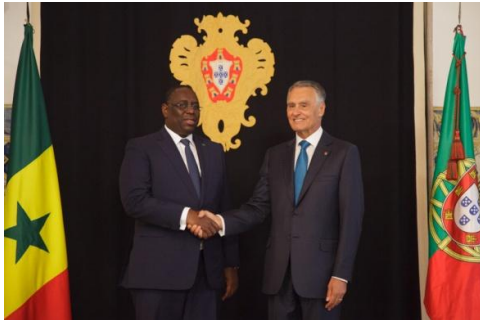
外交

●キャメロン英首相のポルトガル訪問 (4日)

ポルトガルを訪問したキャメロン英国首相は、パソス・コエーリョ首相と会談した。首脳会談では、アラブ諸国におけるイスラム原理主義組織による攻撃や領土の侵略により多くの難民が生じている危機的な状況について協議したほか、英国が提唱する社会保障、経済政策面でのEU改革についても協議が行われた。パソス・コエーリョ首相は共同記者会見において、EU改革については、英国が提唱する提案を土台に、すべての加盟国が恩恵を受けるよう最良な方法を協議する場が設けられることを望む旨述べた。

●サル・セネガル大統領のポルトガル訪問 (8日)

ポルトガルを訪問したサル・セネガル大統領は、カヴァコ・シルヴァ大統領と会談を行い、その後の共同記者会見において、両国の政治・経済関係を強化したい意向を述べると共に、移民の急増及びギニアビサウ情勢に関する両国の利害の一致を強調したほか、ポルトガル語圏諸国共同体 (CPLP) 加盟国代表らとも会談を行い、ポルトガル企業関係者向けの経済セミナーに出席した。



(サル大統領と握手するカヴァコ・シルヴァ大統領 (右))

●マシェッテ外務大臣の訪仏 (15日)

マシェッテ外務大臣はフランスを訪問し、ファビウス外務・国際開発大臣と会談した。会談後の会見でマシェッテ外務大臣は、欧州に押し寄せる難民の危機について、連帯を表明すると共に、これら難民に係る人道問題を決定的な形で解決または緩和したいと考えているとし、両国がEU全体としての解決策を提示することを希望しているという点で立場を共有していることを確認した旨述べた。またマシェッテ外務大臣は、シリアにおける空爆を進めるとのフランスの決定に際し、ポルトガルとフランスは、領土を不法に維持し、国になろうとしている「イスラム国」に対して軍事行動を起こすことが必要との意識を共有している旨述べた。

●第70回国連総会 (28日)

第70回国連総会に出席したカヴァコ・シルヴァ大統領は演説を行い、国連創設70周年と今後の課題、海洋、人権、欧州へ流入する難民とテロ対策・中東情勢、アフリカ、中南米、ポルトガル語の普及につき触れたほか、国連安保理について、その効率的な任務遂

行を可能とするためには世界の現状を反映すべきであり、理事国のカテゴリーを拡大しワーキングメソッドを見直すことが想定される旨述べた。

(国連総会で演説を行うカヴァコ・シルヴァ大統領)



経済

●長期国債の入札 (2日)

ポルトガル国庫公債管理庁 (IGCP) は、シンジケート団引き受けにより、7年物長期国債 (2022年10月償還) の入札を実施、落札平均利回り2.240%で30億ユーロを調達した。

●7月の貿易収支 (財) (9日)

国立統計院 (INE) は、2015年7月の貿易収支 (財) について、輸出47億3000万ユーロ (前年同月比5.6%増)、輸入53億9200万ユーロ (同1.1%減) であった旨、また、直近3か月 (5~7月) については、輸出135億3830万ユーロ (前年同期比6.0%増)、輸入161億3540万ユーロ (同3.8%増) で、貿易収支▲25億9710万ユーロとなっている旨発表した。直近3か月間における輸出入の主な品目別伸び率 (前年同月比) は、以下のとおり。

輸出品目別：輸送機器関連 (+9.9%)

輸入品目別：輸送機器関連 (+17.9%)、燃料・潤滑剤 (-18.0%)

[直近3か月の貿易収支推移]

	5月	6月	7月	合計
輸出額	4242	4567	4730	13538
前年同月比	3.5%	8.9%	5.6%	6.0%
輸入額	5351	5393	5392	16135

前年 同月比	6.5%	6.5%	-1.1%	3.8%
貿易 収支	▲1109	▲826	▲662	▲2597.1

(注) 輸出入及び貿易収支額の単位は百万ユーロ。

●雇用者数の増加 (15日)

ユーロスタットはユーロ圏及びEU各国の2015年第2四半期における雇用者数の増減率(前期比)を発表し、ポルトガルは加盟国の中で最も高い1.3%の増加率を記録した。ポルトガルに次いで高い雇用者数の増加を記録したのは、ギリシャ(+1.2%)、スペイン、アイルランド(+0.9%)で、ユーロ圏及びEU全体としてはそれぞれ0.3%と0.2%の増加率を記録した。

●短期国債の発行 (16日)

ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、6か月物及び1年物短期国債の入札を実施し、発行予定額(合わせて10-125億ユーロ)を上回る合計13億ユーロを調達した。6か月物の落札額は3億ユーロ、落札平均利回りは0.006%、応札倍率は4.1倍であった。また、1年物の落札額は10億ユーロ、落札平均利回りは0.051%、応札倍率は2.1倍であった。

●2014年度財政赤字の修正値発表 (23日)

国立統計院(INE)は、昨年政府とポルトガル中央銀行による49億ユーロの資金注入により救済され現在の管理下にある新銀行の売却先が8月末までに決定しなかったことを受け、2014年の財政赤字(暫定値)について、4.5%(本年3月発表時)から7.2%まで引き上げる旨を発表した。

●2015年1～8月の予算執行状況(財政赤字) (25日)

財務省は、2015年1～8月の財政赤字について、39億5720万ユーロ(前年同期より6億6700万ユーロ減)であると発表した。

●8月の雇用統計(速報値) (29日)

国立統計院(INE)は、8月の雇用統計(速報値)を発表、失業率は7か月ぶりに上昇し12.4%(前月

比0.1ポイント増)、失業者数63万3000人であった。また若年失業率(15-24歳)は31.8%(前月比0.6ポイント増)で、若年失業者数は11万6200人であった。

社会・その他

●小売業の販売高 (3日)

「プブリコ」紙によると、全国流通業協会(APED)が販売統計を掲載し、今年第2四半期の食料品やその他の消費財の販売高は9か月ぶりに増加し25億2100万ユーロとなった(前年同期比2ポイント増)。全体の35.8%を占める生鮮食料品の販売高は前年同期と比較して0.2ポイント増加した。

●ポルトガルの乾燥度 (4日)

「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙によると、海洋気象庁(IPMA)はデータを公表し、降水量や気温、土壌水分などから算出した乾燥指数について、ポルトガル国土の70%がかなりの乾燥状態にあり、過去70年でも深刻な状態にあるとした。

●ポルトガルのワイン輸出 (12日)

「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙によれば、今年上半年のポルトガルのワインの輸出額は3億2800万ユーロで、前年同期比で1400万ユーロ増加(4.6%増)し、輸出量についても2.1%増加した(前年同期比)。

●難民認定申請の増加 (19-23日)

「エスプレッソ」紙他によると、今年1月から9月14日までの難民認定申請は643件で、前年よりも43%増加した。ウクライナ、シエラレオネ、ソマリア、パキスタン、コンゴ民主共和国及びマリ国籍者からの申請が特に多く、シリア国籍からの申請は本年1月からこれまでの6件のみであった。現在、ポルトガルでは1,500人が難民として滞在している。